

## 年 頭 の 辞

### 昭和 30 年 を 迎 え て

会 長 沢 村 宏



今年是我協会が大正4年発足してから40周年目に当る。この記念すべき年を迎えるに際し会員各位の益々御多幸ならんことを御祈り致すと共に、旧年における我製鉄業を顧み我協会の活動状態を記し、最後に会長としての希望を述べて年頭の御挨拶に代えたいと思う。

我製鉄業は終戦直後夢想だもすることができなかつた程速かに立直ることができた。又一時朝鮮動乱時におけるが如く好景気に恵まれたこともあつたが、全く荆棘に満ちた苦難の途を喘ぎながら今日迄辿つてきたという感が深い。殊に昨年中は深刻なる不景気に見舞われ、製鉄会社にして倒産し或いは倒産の危機に瀕したるものが少くなく憂鬱極まりない状態で終始したことは周知の如くである。

我製鉄業の進路に横わる主なる隘路については2年前に論じたことがある（熔接界、第5巻(昭28)1頁参照）から触れないことにするが、昨年の我製鉄業不振の直接原因はいう迄もなく政府が28年秋以来経済自立を目指してとつてきた財政規模の圧縮、金融引締めを中心とする一連のデフレ政策にあるのである。幸にして我国の国際収支は29年6月を転機として始めて黒字を示すに至り、29年度計2億ドルに近い黒字が予想され、鉄鋼成品の輸出額も次第に増加する傾向が認められ、我製鉄業者の愁眉が漸く開かれる時が到来せんとしていることは兎に角御同慶に堪えない次第である。然しながらこれは政府のデフレ政策に伴う通貨及び物価事情の好転にもよるであろうが、歐洲の製鉄事情からも大きな影響を受けているようである。従つて現在の我製鉄業は基盤が頗る不安定なることは従来と変りがなく、現在の儘では将来屢々昨年度と同様の不況に悩む怖れがあるという考えは決して杞憂ではない。我製鉄業を好条件のうちに導きその将来の繁栄を維持するには、まず製鉄業を困難ならしめる根本的原因をあらゆる角度から究明することが何よりも必要であつて、官民協力してその除去に懸命の努力を払わなければならない。新聞の伝えるところによると通産省は我製鉄業の合理化を促進しその国際競争力を強化する為、通常国会に臨時鉄鋼合理化法案を提出するに先だち鉄鋼対策調査会を設ける趣であるが真に結構な企と思う。願くばその立案は上記の根本問題の徹底的研究の結果に基いて造られんことを切望して止まない。

昨年中我製鉄業は前述のように沈滞しきつた空気に包まれていたにも拘らず、我協会は例年の春秋2回の講演大会及び種々の研究会等の他に次に述べるような各種の事業を完成し或いはそれに着手して活潑なる活動を行うことができたことは真に喜ばしい。この機会に直接御世話の衝に当たられた諸氏に対し会員各位と共に満腔の謝意を表したいと思う。

第1は「鉄鋼要覧」の改編である。これは昭和27年1月着手され、2年3月を費して漸く昨年4月「鉄鋼便覧」と改名されて発行を見、江湖の好評を博していることは御承知の通りである。第2は「加熱炉の設計と実際」の出版である。これは1昨年出版された「熱経済技術要覧一計測編」の姉妹編であつて、我協会の熱経済技術研究部会において数年間に亘つて得られた研究成果の結晶というべきであろう。第3は会誌についての改良である。まずその表紙の体裁を時代の感覚に応じて本会誌から一新することにした。会員各位は本会誌を手にならされて一見定めし清新の気を味われることであろう。会誌の内容も一部変えられることになつたが最も注目すべき改良は本年度から毎月初め会誌を遅滞することなく発行することを定めたことである。これによつて会誌については戦前の本然の姿に帰る訳である。第4は鉄鋼技術共同研究会の成立である。御承知の通り昭和23年旧商工省鉄鋼局、旧日本鉄鋼会及び我協会は鉄鋼技術研究連絡会を結成し、我協会は重要な事業の1つとしてこの研究連絡会を通じて種々の研究を行い多大の成果を挙げたのである。然るに昨年の会誌10月号に記載されている通り、昨年10月通産省重工業局、日本鉄鋼連盟及び我協会は上記の研究連絡会を解散、改めて鉄鋼技術共同研究会を発足させ、三者協力して今迄よりも更に

強力に鉄鋼技術の研究を推進して我製鉄業に寄与することになった。私はその会長に推薦されたのであるが、研究会の成果は運営法の如何にかかり責任の重大なるを痛感している次第である。第5は己に我協会から出版されている「鋼の熱処理と作業標準」の改編、第6は United States Steel 会社著 “The Making, Shaping and Treating of Steel” 6 版 (1951) の翻訳である。いずれも製鉄関係者の熱望に応じて企てられた事業であつて本年中に完成される予定である。第7は俵博士記念資金の募集である。我協会は戦前俵国一先生が寄附せられたる基金により会誌に掲載せられたる論文中学術上及び技術上最も優秀なる論文の寄稿者を表彰してきたのであるが、終戦時の財界混乱の結果により資金が涸渇してきたので、その目的を達する為今回改めて主として個人を対象にして寄附金を募集することになった。尙前述のように本年は我協会が誕生してから 40 周年を迎えるので、来る4月の大会に我製鉄業及び我協会の功労者の表彰、記念号会誌の発刊等の記念事業を行うことを計画している。このことは会誌3月号に記載されることになっているから詳細はそれによつて御承知願いたい。

次に会長として本年度着手致したいことを希望する事業は2つある。

第1は我協会の事業計画並びにその経済的基礎を安定ならしめる方法の研究であり、第2は鉄鋼技術に関する研究の合理化である。

我協会は創立以来歴代の会長、その他の役員及び会員各位の御努力により逐年盛大に赴き今日に至つていのであるが、その活動状態は欧米先進国における鉄鋼関係の学会のそれと比較しても知られるように決して満足すべきものでないのであつて、会長として、我協会において現在行つている事業の他、更に例えば育英資金を設けて優秀なる鉄鋼技術者を養成するとか、大学における鉄鋼研究室に研究費を提供してその設備の改善及び研究に援助を与えらるるか (Stahl u. Eisen, 72 (1952) 1053 参照)、協会自体に研究所を備え国家的重要問題の研究に当るとか、図書室を拡充して鉄鋼に関するあらゆる文献を蒐集整備して研究家並びに業者の利用に供するとか或いは鉄鋼に関する学術の内外の交流を行うとか、その他種々有益なる事業を行いたい願望に駆られざるを得ない。然しながらその実現は多額の経費を伴い容易の業ではない。我協会の経済的基礎を見るに戦後特に薄弱で、少しく多額の資金を要する事業を行わんとすれば一々有志者の寄附に俟たなければならないような衰れた状態にある。従つて我協会において前記のような諸事業を行うにはまず事業規模に応じて確固たる経済的基礎を築くことの必要なるはいう迄もない。

勿論これは我国の現在の経済的情勢の下では難事の中の難事と考えられ、殊に上記のような願望を一挙に実現せんとする企は恐らく不可能に近い無謀の企であると断ぜざるを得ない。然しながら長期間に一歩一歩理想に近づく道は必ずや存在すべき筈である。私はこれこそ万難を排して見出さなければならない道であると考え、所謂窮すれば通ずる道を求めることを目的とする研究会を設置することを熱望して止まない次第である。この研究会は、我協会は長期に亘り如何なる事業を行うべきや又これに関連して我協会の経済的基礎を長期に亘りて安定ならしめる為には如何なる方法によるべきやの問題の研究に着手し、その漸進的実行計画を立案しなければならないのであるが、この問題は短時に解決される簡単なものでなく、根気よく種々の面から検討考究し尽されなければならない大問題である。然しながら我協会としては重要な使命を十分に達成する為には研究が如何に長時間を要するとも、これにつき是非とも何等かの成案を得なければならない。

次に現在鉄鋼技術に関する総合研究は、鉄鋼技術共同研究会、日本學術振興会第19、第24及び第54委員会、関西鉄鋼技術研究会等種々の団体で行われている。各団体の立場が異り各団体で取扱う問題は多くは自ら団体毎に異つていようであるが、中には重複しているものもなく又熱管理、作業能率、潤滑、熔接等の問題のように2団体或いはそれ以上の団体に関係を有する問題も少くはない。かような問題は関係を有する団体が相互に連絡協力して智能、経済、時間の空費を避け成る可く速に研究の成果を有効に挙げなければならないことは我国の現状において特に必要であると思う。これは勿論現在或る程度行われているのであるが、私は今後我協会の1事業としてこの所謂研究の合理化を目標に選りその強化に努力せんことを期している次第である。

擧筆するに当り会員各位におかせられては今後益々我協会に深い愛着の熱意を寄せられ、協会の諸事業に対し熱誠なる御協力と御支援を賜わらんことを御願ひ致したいと思う。